

令和 6 年度 米子市社会福祉協議会事業報告書

I 総括及び重点目標の取組状況

＝重点目標＝

1 組織体制と財政基盤の強化

2 地域福祉事業の推進

3 生活支援・総合相談事業の推進

令和 6 年度は、パリ五輪の開催や 20 年ぶりの新紙幣の発行、石破首相の誕生などの話題もあり徐々に明るくなることを期待された年でした。しかしながらロシアのウクライナ侵攻は 3 年経過しても収束せず、国際的な原材料価格の上昇に加え、円安の影響などから物価が高騰し、令和の米騒動など市民にとっては住みやすい環境ではありませんでした。

米子市社会福祉協議会では、誰もが自分らしく、安心して暮らせる福祉のまちづくりと地域福祉の推進を掲げ、米子市や関係機関と連携しながら協働して支援に取り組んでまいりました。特に米子市との 2 年間の人事交流において米子市総合相談支援センター「えしこに」へ地域包括支援センター職員を出向させ、相談業務に励み、市と綿密な関係を築きました。

組織体制と財政基盤の強化では、事業の見直しやコスト削減に向け D X 化や会計システムの変更、節減に努めました。また中期経営計画、人材育成プランの策定、人事評価制度導入を開始し、将来に向けた組織の安定への基盤整備をいたしました。

地域福祉事業の推進では、重層的支援体制整備事業を推し進め、「米子市地域“つながる”福祉プラン」の最終年度として基本目標の達成のため、実践に取り組み、次期計画策定へ反映いたしました。

生活支援・総合相談事業の推進では、生活困窮者自立支援事業の一環である住居確保給付金事業、家計改善支援事業、生活福祉資金貸付を一体的に運用することで円滑な支援を実現するとともに、「えしこに」との連携を図り、チームとして支援体制の構築に尽力いたしました。

本会の経営状況においては、寄付金の減少傾向に加え人件費増加、物価高騰など様々なコストが上昇しているため、厳しい状況が続いています。こうした状況を冷静に受け止め、中期経営計画に基づき様々な施策を実行し、経営基盤の強化に努めてまいります。

Ⅱ 事業実施報告

1 法人運営事業

会議の開催及び参加、事業の企画立案及び実施、情報公開の推進、適正な法人の運営、中期経営計画の策定等、財政の健全化と組織の強化に努めた。

(1) 会議の開催

ア 正副会長会の開催

正副会長会を開催し、理事会、評議員会提出議案等について協議した。

イ 理事会の開催状況（3回）

開催日	内容等
令和6年6月6日	・報告事項 会長、常務理事の業務執行状況報告 ・令和5年度事業報告、収支計算書、貸借対照表及び財産目録承認 ・理事候補者選任 ・評議員候補者選任 ・定時評議員会の招集事項の議決
令和6年9月6日	・報告事項 第54回米子市社会福祉大会開催について ・規程の改正についての承認 ・米子市社会福祉協議会長表彰候補者の決定
令和7年3月10日	・報告事項 会長、常務理事の業務執行状況報告 ・定款変更についての承認 ・令和6年度資金収支補正予算の承認 ・令和7年度事業計画、資金収支予算の承認 ・規程の改正についての承認 ・評議員会の招集事項議決

ウ 評議員会開催状況（2回）

開催日	内容等
令和6年6月26日	・令和5年度事業報告、収支計算書、貸借対照表及び財産目録承認 ・理事の選任議決
令和7年3月25日	・定款変更についての承認 ・令和6年度資金収支補正予算の承認 ・令和7年度事業計画、資金収支予算の承認 ・規程の改正についての承認

エ 監査会開催状況

開催日	内容等
令和6年5月23日	・令和5年度事業報告、収支計算書、貸借対照表及び財産目録の監査

オ 評議員選任・解任委員会

評議員を選任する評議員選任・解任委員会を開催し、評議員候補者について審議し、評議員 5 名を選任した。

- ・開催日 令和 6 年 7 月 3 0 日
- ・出席者 4 人（委員 3 人、市社協 1 人）

(2) 定款、規程の改正の状況

- ・定款の変更
- ・経理規程の改正
- ・役員及び評議員等報酬等支給規程の改正
- ・事務局組織規程の改正
- ・役員及び職員給与規程の改正

(3) 役員、評議員の選任状況

ア 役員の選任（令和 6 年 6 月 2 6 日付）

- ・理事 2 人 足立秀憲、本池有利子

イ 評議員の選任（令和 6 年 7 月 3 0 日付）

- ・1 号評議員 2 人 木村俊二、三澤允男
- ・2 号評議員 2 人 角田和久、森田哲也
- ・4 号評議員 1 人 深田久美子

(4) 苦情対応

苦情対応の体制整備のため、苦情解決第三者委員会を設置し研修会へ参加した。

ア 苦情解決第三者委員

本池美由樹、松本 眞、鎌田真治

イ 研修会の参加

- ・福祉サービス苦情解決事業研修会
期日 令和 6 年 7 月 2 9 日 オンライン開催
参加者 4 人（市社協職員 1 人）

(5) 財政の健全化

自己財源確保を目指し、収益事業として始めた自動販売機設置事業を増台し効果的な設置を行うことで増収となった。この収益は、各学校に図書を贈る活動など地域福祉事業の財源の一部として活用することができた。

また、香典返しや一般寄付金の寄付金税額控除について広報やホームページなどにより周知に努めた。

福祉の地域づくり自動販売機の状況（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

区分	実績額（円）
販売手数料	4,284,779

会費の状況（令和7年3月31日現在）

区分	世帯数・件数	実績額（円）
一般会費	37,500世帯	22,500,000
団体会費	91件	455,000
賛助会費	155件	1,290,000

寄付金の状況（令和7年3月31日現在）

区分	実績額（円）
一般寄付	1,232,069
香典返し	6,223,762
交通遺児寄付	113,080

(6) 情報公開

本会の事業内容、事業計画・予算書、事業報告・決算書について「よなご社協だより」及び本会ホームページに掲載した。

(7) 広報活動の実施

市民に対する福祉意識の啓発のために、広報活動として、会報を発行するとともに、ホームページによる情報発信、PR活動を行った。

ア 会報「よなご社協だより」の発行全戸配布

年4回発行 174号～177号

1回当たり発行部数 43,700部

イ ホームページによる情報発信

福祉サービスの内容、行事等随時更新し充実を図った。

(8) 人材育成・人事評価

本会の人材育成の指針となる「人材育成基本方針」に基づき人事評価制度を実施し、職員の成長の促し及び組織の活性化を図った。

また、職員の能力向上と育成を目指し、長期的な人材育成のために鳥取県社協主催の階層的研修等に参加した。さらに、福祉人材の育成のため、社会福祉士等の養成のため実習生を受け入れた。

ア 研修参加

- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修

開催日 令和6年7月～8月 3人参加

- ・市町村社協新任職員研修

開催日 令和6年6月 1人参加

イ 実習生の受入れ

- ・看護師養成実習 鳥取看護大学 6人

- ・社会福祉士養成実習 島根大学 3人

(9) 給与制度の改正

労働者不足や物価高騰を背景に、国主導で賃上げ政策が進められる中、本会職員の高年齢化に伴う人件費の増額が経営を圧迫している。一方、嘱託職員の給与は相対的に低い水準となっており、今後の人材確保に支障が出ることが予想される。法人経営の持続可能性を高めるとともに人材の確保のため、給与制度を改正した。

ア 正規職員の給与改正

- ・副主任を廃止して主任に統合し、職を整理
- ・主任の格付け３級から２級に、課長補佐の格付を４級から３級に変更
- ・降格した者には３年間の現給保障を実施

イ 嘱託職員・臨時職員の給与改正

- ・嘱託職員の月給及び賞与を改正
- ・臨時職員の日給を改正

(10) 大会の開催及び参加

昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となっていた各種大会やイベントは、開催を再開した。

ア 米子市精霊会（令和６年８月１６日開催）

イ 県民総合福祉大会（令和６年９月１２日参加）

ウ 米子市福祉のつどい（令和６年９月２９日開催）

エ 米子市社会福祉大会（令和６年１１月７日開催）

オ 米子市民余芸大会（令和６年１２月１４日開催）

(11) 顕彰の実施

本市における社会福祉事業の推進に功績のあった個人、団体に対し、表彰又は感謝状を贈呈した。

ア 社会福祉事業表彰

- | | |
|-------------|-----|
| ・永年在職団体役員 | １４人 |
| ・永年在職民生児童委員 | １人 |
| ・永年在職施設団体職員 | ２５人 |

イ 社会福祉事業感謝状

- | | |
|------------|-----|
| ・ボランティア団体 | １団体 |
| ・永年在職在宅福祉員 | ２０人 |
| ・社会福祉事業協力者 | ４人 |

ウ 在宅福祉員特別感謝状	２５人
--------------	-----

(12) 職員の衛生管理

職場の環境改善や職員の健康保持増進を図るため、衛生委員会を開催し、衛生に関する調査審議するとともに健康診断、ストレスチェック、メンタルヘルス研修を実施した。

ア 衛生委員会 毎月開催 年１２回

- イ メンタルヘルス研修会（県社協主催オンライン開催）
 - ・開催日 令和6年11月5日、12月17日 12人参加
- ウ 健康診断 50人受診（11月）
- エ ストレスチェック 51人受診（11月）

(13) 米子市社会福祉法人連絡会の開催

社会福祉法人同士の連携協力、情報交換等を進めるため、連絡会、懇親会等を開催した。加入法人が連携して地域貢献活動を行う事業「地域お助けネットワークよなご」について、関係機関や団体、小中学校へ周知活動を行った。活動の定着とともに年々依頼数が増加している。

- ア 総会の開催（令和6年7月23日）
- イ 役員会の開催（令和6年6月18日、令和7年1月17日）
- ウ 研修会の開催（令和7年2月26日）
- エ 懇親会の開催（令和6年11月25日）
- オ 「地域お助けネットワークよなご」活動件数8件

(14) 業務効率化

勤務管理システムの導入、消費税納付に対応するため新たな会計ソフトの導入など、DXの推進により、業務効率化に取り組んだ。

2 地域福祉事業

地域福祉活動の推進を目的に、地区社協等の地域活動団体や各関係機関に働きかけを行い、各種事業を実施した。また地域福祉活動支援員（コミュニティワーカー）が様々な関係団体、行政との連携、協働を図りながら地域福祉の向上に資する活動を行った。

(1) 地域支援事業

ア 地域力強化推進事業

米子市内の各地区を担当する地域福祉活動支援員（コミュニティワーカー）を配置し、住民主体で行う地域福祉活動の支援を行った。また住民からの相談を受け付け、地域課題が解決できるよう働きかけを行う事業を実施した。

（ア）地域活動支援関係

- ・地域支え合い推進会議関係 (105件)
- ・防災活動・支え愛マップづくり関係 (54件)
- ・地域の居場所づくり関係 (185件)
- ・在宅福祉員活動関係 (46件)
- ・企業、他法人、多機関との連携協働 (84件)
- ・福祉教育関係 (47件)
- ・地域資源の実態把握 (157件)
- ・住民・団体活動の支援 (173件)
- ・研修会参加 (38件)

(イ) 個別相談支援関係 (延べ相談件数 20 件)

イ 米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗管理、第 2 期計画の策定

米子市との協働により米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会の事務局を担い、計画の進捗管理を行った。また令和 7 年度より開始される第 2 期計画の策定を行い、そのために必要な調査等を実施した。

- ・第 8 回推進委員会の開催 (令和 6 年 5 月 1 日)
- ・第 9 回推進委員会の開催 (令和 6 年 7 月 18 日)
- ・第 10 回推進委員会の開催 (令和 6 年 9 月 30 日)
- ・第 11 回推進委員会の開催 (令和 6 年 11 月 8 日)
- ・第 12 回推進委員会の開催 (令和 7 年 2 月 18 日)
- ・地域団体活動者との意見交換会の開催
- ・高校生を対象としたワークショップの開催
- ・第 2 期計画についてのパブリックコメント募集

ウ 地区版福祉のまちづくりプランの推進

地区版福祉のまちづくりプランについて引き続き周知を図ったが策定される地区はなく、新たにプラン策定しやすい方法について検討を行った。計画期間が終了した地区も含め、計画策定地区の会議等に参加し、進捗状況の確認や活動の支援を行った。

エ 地域での福祉教育の推進

各地区が開催する研修会等に参加し、地域福祉について理解の促進、啓発活動を行った。

オ 地域立子どもの遊び場の支援

地域住民参加の団体で運営している遊び場を登録し、助成を行った。

- ・地域立子どもの遊び場設置数 103 施設 (市社協登録施設)

カ 各公民館・自治連合会・民生児童委員協議会等との連携

各種関係団体と連携、協力しながら地域福祉の推進に向けた活動を実施した。

(2) 小地域ネットワーク事業

ア 在宅福祉員による見守り援助活動の推進

80 歳以上の一人暮らし高齢者、高齢者世帯等を対象に、困りごとの早期発見や安否確認を目的とした在宅福祉員による見守り援助活動を行った。

- ・在宅福祉員数 731 人 (令和 7 年 3 月時点)
- ・見守り援助活動対象者数 4,312 人
- ・見守り援助活動利用者数 2,876 人 (延べ利用者数 28,288 人)
- ・歳末見守り援助活動利用者数 3,568 人

イ ふれあい・いきいきサロン活動の推進

日中閉じこもりがちな高齢者等が定期的に集うことにより、日中活動の充実や住民同士の繋がり、困りごとの早期発見を目的としたふれあい・いきいきサロン活動を支援した。

- ・ふれあい・いきいきサロン設置数 152 サロン
- ・ふれあい・いきいきサロン世話人交流会の開催 (令和 6 年 11 月 28 日)
- ・ふれあい・いきいきサロン講師派遣事業 利用件数 63 件

ウ 支え愛マップづくり活動の推進

自治会域において、災害時の要援助者避難支援や平常時の見守り体制構築を目的に作成する支え愛マップづくり活動について、事業内容や作成方法について説明会を実施するなど活動の支援を行った。

また、「災害時における支え愛地域づくり推進事業」について周知し、災害時の支え合い活動における補助事業の活用啓発、申請相談及び支援を行った。

「災害時における支え愛地域づくり推進事業」補助決定件数

- ・災害時要支援者対策促進事業 1 件
- ・ステップアップ事業 2 件
- ・住民組織間交流事業 1 件

エ e スポーツ普及啓発事業の実施

各地区のふれあいいきいきサロンやイベント等を対象に、e スポーツの機材（太鼓の達人）を持参し体験会を実施した。昨年度と比べふれあいいきいきサロンからの依頼が増加するなど、e スポーツの普及が広がっている。

鳥取県e スポーツ協会と協働し、地区のイベントにおいて体験ブースを設置し、子どもから高齢者まで参加があり多世代交流の機会となった。

e スポーツ普及啓発事業の実施状況

サロン支援	26 回
地区のイベントで活用	4 回
地区の講座・体験会	2 回

(3) 地区社協活動支援事業

ア 地区社協活動財源の支援

地区社協に対し補助金を交付し、地域福祉活動に対する支援を行った。

イ 地区社協への各種情報提供

県内で開催される研修会等の情報を地区社協に発信するとともに、地区社協からの相談に応じ、適宜必要な情報提供を行った。

ウ 米子市地区社会福祉協議会長連絡会の事務局運営

米子市地区社会福祉協議会長連絡会の運営に協力するとともに、地域福祉活動の支援、協働を推進した。

- ・連絡会の開催（令和6年5月30日、8月28日、令和7年2月27日）
- ・正副会長会の開催（令和5年5月10日、7月22日、令和7年1月22日）

エ 米子市在宅福祉員代表者連絡会の事務局運営

米子市在宅福祉員代表者連絡会の運営に協力するとともに、在宅福祉員活動の支援、協働を推進した。

- ・連絡会の開催（令和6年6月25日、12月4日）
- ・正副会長会の開催（令和6年6月4日、10月23日）

3 生活支援・総合相談事業

(1) 生活困窮者自立支援事業

ア 自立相談支援事業

相談受付においては広く対象者を受け止め、電話相談、面談、訪問、同行支援等を行った。相談者が自らの意思で自立に向けて行動できるように課題を整理し、具体的な方策に基づいて解決に当たることができるよう一人ひとりの状況に応じた自立プランを作成。相談者の意欲や想いを引き出し、設定した目標を達成できるよう伴走支援を行った。

高齢者・障がい者・母子父子世帯においては経済的な課題だけでなく、複合的な課題を抱えている世帯が多く、他の制度や関係機関と連携しながらチームによる支援を行った。

昨年度より見られた変化が増加したことは相談者と支援員の両者が本人主体の課題解決に取り組み、同じ方向に向かって信頼関係を構築できた成果と捉える。

相談の状況

(件)

	令和6年度	令和5年度
新規相談受付件数	4 3 4	3 6 1
プラン作成件数	8 3	1 3 5

プラン作成評価の状況

(件)

	令和6年度	令和5年度
評価実施件数	1 2 2	9 3
終結件数	9 9	4 8
見られた変化あり	1 1 7	8 9

イ 住居確保給付金

就労を希望する相談者を対象にハローワークへの同行等自立相談支援事業による就労支援を行った。住居確保給付金の活用を促し、就職活動中の住居確保が図れるよう努めた。相談者が積極的に就職活動に取り組めるよう意欲喚起を行い、昨年度より再就職等により収入が増加した件数が増えたことは就労支援の成果を考える。

相談の状況

	令和6年度	令和5年度
相談支援件数	4 5 4	3 5 5
給付延べ件数	1 0 0	2 4 4
一般就労開始	2 8	9
就労収入が増加	2 7	2

ウ 会議、研修への参加

- ・自立相談支援事業に関する研修への参加

初任者研修、担当者連絡会、支援推進会議、主任研修会、研修企画検討会、人材養成研修（都道府県研修）・ブロック研修への参加

- ・重層的支援会議への参加

情報共有と連携強化のために毎月第2水曜日、合計7回出席した。

- ・支援調整会議の開催

情報共有と支援プランの適正性の確認および評価を行う。また関係機関と

協議することで支援の質を確保する。毎月第2水曜日、合計11回開催した。

- ① 総合相談センター「えしこに」との連携強化のための勉強会へ計9回参加した。

エ 家計改善支援事業

「生活困窮者自立支援事業」により、経済的、社会的困窮状態にある方、家計収支の均等が取れていない、収支管理をアドバイスすることで安定した生活を維持できるなど家計に問題を抱えている方などに対し、自立相談支援事業と連携し、課題解決に向け支援を行った。相談者自身が家計を管理できるようになるために目標を設定し、一人ひとりのプランを作成した。電話相談、面談、訪問、弁護士相談への同行支援を実施した。支援を行っていくうえで最も重要なことは信頼関係の構築であり、通帳・書類・郵便物など相談者のセンシティブな情報の聴き取りには十分な配慮を行い、時間を費やした。

相談者自身が家計管理について課題を理解し、収支状況の把握ができるよう既存の収支表や一人ひとりにあった収支表を作成し、意欲を引き出せるよう支援を行った。家計状況の「見える化」、課題の「把握」、「提案」、「助言」をすることで相談者自身が現状を理解し、現状把握、重要性の認識ができ、自らで管理できるよう意欲を引き出す支援を行った。家計状況が改善されたため終結となるケース、滞納や負債の軽減が図れた方もいたが、中には新たな負債が判明し、様々な事情で家計の安定が図れず継続的な支援や生活保護へのつながが必要になるケースがあった。

相談の状況

(件)

	令和6年度	令和5年度
新規相談受付件数	44	27
他機関へのつなぎで終了件数	2	0
プラン作成件数	12	4

プラン作成評価の状況

(件)

	令和6年度	令和5年度
評価実施件数	14	0
終結件数	10	0
見られた変化あり (家計の現状把握・重要性認識)	9	0

オ 会議、研修への参加

人材養成研修（都道府県研修）・ブロック研修への参加、家計改善事業従事者養成研修へ参加し、課程を修了した修了証の交付を受けた。

行政と協働でファイナンシャルプランナーを講師に迎え高校生向けに、お金の使い方についての研修を開催した。

講師依頼により講師として包括支援センター研修会にて事業説明を行った。

(2) 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業

ア 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う生活福祉資金（コロナ特例貸付）を利用された方へのフォローアップを目的に、生活にお困りの方の状況を把握するためアウトリーチ支援を行った。償還が難しい方には非課税免除の対象にならないか、聞き取りを行い、必要書類、取得場所等が書かれたメモを配布しきめ細かく周知した。免除対象にならない方には、猶予・少額返済を案内し、その方の状況にあった支援を行った。猶予期間中の希望者に対しては、月1回の面談を実施した。収支状況が好転する方は少ないが、猶予期間中に生活状況の立て直しをされ、猶予後は少額返済、通常の返済額での償還再開に導いた。償還完了者に対しても相談に応じたきめ細やかな支援を実施し、安心した生活を送るための支援を行った。

相談の状況（件）

	令和6年度	令和5年度
相談受付	1, 010	1, 502

アウトリーチ支援（回）

	令和6年度	令和5年度
訪問	20	39
電話・メール	513	127
郵送	45	0

償還完了者新規相談（件）

	令和6年度	令和5年度
貸付相談	11	
就労相談	3	
自立相談	1	
生活相談	1	
住居確保給付金	1	

イ 会議、研修への参加

県社協主催のフォローアップ支援に関わる研修に参加し、県下の市町村社協との情報の共有や県外で実施されているフォローアップに寄与する事業の情報収集を行った。

また、特例貸付利用者世帯への相談支援を実施する上で、世帯としての課題をアセスメントできるように、生活困窮者自立支援事業に関わる研修にも積極的に参加し、研鑽を行った。

(3) フードパートナー事業

緊急的かつ一時的に食事の確保に困るほど生活に困窮している世帯に対して、生活に必要な食料等を提供する生活再建に向けた支援を行った。

支援対象世帯の状況 (件)

	令和6年度	令和5年度
一般	18	35
貸付申請中	8	3
生活保護申請中	12	3
生活保護受給中	1	2
合計	39	43

支援対象世帯の人数内訳 (件)

世帯	令和6年度	令和5年度
単身	28	31
2人	5	4
3人以上	6	8
合計	39	43

食品・食材提供者 (各年度3月31日現在) (件)

	令和6年度	令和5年度
登録者	27	35

(4) えんくるり事業による経済的支援 (現物給付)

既存の制度では対応できない、または緊急を要する場合の一時的な支援として、現物給付による経済的支援を実施した。

(件)

	令和6年度	令和5年度
支援件数	11	10

(5) 日常生活自立支援事業 (地域福祉権利擁護事業)

日常生活に不安を抱えている高齢者や障がい者 (知的・精神障がい) の方等を対象に、福祉サービスの利用援助とそれに伴う日常的な金銭管理、書類等預かりサービス等を実施した。自立や成年後見制度の移行等により利用者数が減少した。

現在利用者数 (人) (令和7年3月31日現在) () 内はR5年度実績

高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	生活保護 (再掲)	合計
25 (27)	15 (17)	11 (14)	0 (0)	21 (22)	51 (58)

新規契約・解約件数 (件)

高齢者		知的障がい者		精神障がい者		その他		合計	
新規	解約	新規	解約	新規	解約	新規	解約	新規	解約
0	3	0	2	0	2	0	0	0	7

相談援助件数（件）

高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計
998 (1,330)	443 (677)	271 (645)	3 (2)	1,715 (2,654)

・ 内部審査会の開催

契約締結審査会の審査前に内部での審査会を開催し、契約の適正性の確認と支援プランの評価を行った。毎月第2月曜日開催、合計12回開催した。

(6) 資金の貸付

ア 生活福祉資金の貸付

低所得者世帯、高齢者世帯、障がい者世帯を対象に、必要な相談支援ならびに安定した生活を送るための資金の貸付を行った。

資金別貸付件数及び金額

資金の種類	貸付件数（件）	貸付金額（円）
福祉資金（福祉費）	6	5,357,000
緊急小口資金	28	2,276,000
教育支援資金	8	3,095,000
臨時特例つなぎ資金	0	0
総合支援資金	6	1,509,490
小計	48	12,237,490

イ たすけあい金行の貸付状況

生活保護申請中の世帯を対象に、生活保護が決定される間で、第1回目の生活保護費が支給される日までの生活費として貸付を行った。

（ ）内はR5年度実績

資金の種類	貸付件数 (件)	貸付金額 (円)
一時貸付		
20,000円 (1～2人世帯)	44 (38)	880,000 (760,000)
30,000円 (3人以上世帯)	5 (8)	150,000 (240,000)
合計	49 (46)	1,030,000 (1,000,000)

4 ボランティア活動、福祉教育の推進

(1) ボランティア活動の推進

ボランティア活動の拠点として、市民のボランティアに対する理解と関心を深め、活動に必要な情報収集、また各種講座の開催等を行うことでボランティアの育成、支援を図った。

ア 米子市ボランティアセンターへのボランティア登録状況

登録団体について、更新の手続き及び活動状況の調査を行った。

区分	団体数、人数
登録ボランティア団体	76団体、2,623人
登録個人ボランティア	88人

イ 米子市ボランティアセンターへの相談状況

施設等関係機関への情報提供の機会を増やしたことから、ボランティア依頼、相談及びコーディネート件数が増加した。

区 分	件数（件）・人数（人）
新規登録[個人、団体]	個人45人、団体3
依頼件数[要請・お願い]	95件
相談件数[助言・情報提供]	570件
コーディネート件数（内マッチング件数）	313件（188件）
その他相談等[保険・部屋利用等]	436件

ウ ボランティア講座・研修会の開催

ボランティアを始めたい方等を対象に、「ボランティア入門講座」を開催した。昨年度より回数を1回増やし5回開催とした。またサロン世話人の方、地域活動へ参加されている方等を対象に、「レクリエーション講座」を4回開催した。

・ボランティア入門講座

	開催日	講座内容	受講者 （人）	場所
1	6月7日 （金）	「ボランティア活動を始める前の心構え」 講師：米子市ボランティアセンター職員 「ボランティア紹介・体験（手話）」 講師：西部ろうあ仲間サロン会会員	19	ふれあいの 里

2	8月2日 (金)	「ボランティア活動を始める前の心構え」 講師：米子市ボランティアセンター職員 「ボランティア紹介 (地域活動サポーター)」 講師：米子市社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課職員	8	
3	10月4日 (金)	「ボランティア活動を始める前の心構え」 講師：米子市ボランティアセンター職員 「ボランティア紹介・体験 (障がい者施設・介護施設)」 講師：米子市児童発達支援センターあかし や・グループホームかみごとう職員	14	
4	12月6日 (金)	「ボランティア活動を始める前の心構え」 講師：米子市ボランティアセンター職員 「ボランティア紹介・体験(筆談)」 講師：全国要約筆記問題研究会鳥取県支部 (西部)	12	
5	令和7年 2月7日 (金)	「ボランティア活動を始める前の心構え」 講師：米子市ボランティアセンター職員 「ボランティア紹介・体験(傾聴)」 講師：よなご傾聴しあわせの会	18	

・レクリエーション講座

	開催日	講座内容	受講者 (人)	場所
1	7月8日 (月)	「座ってできる全身体操」 講師：米子市フレイル対策推進課 作業療法士 小椋 善文氏	20	ふれあいの 里
2	9月9日 (月)	「とんとん相撲・ビー玉キャッチ 身近な もので作ってみよう！遊んでみよう！」 講師：おもちゃ工房・とんぼ舎 伊達 孝禮氏	16	
3	11月11日 (月)	「折り紙で作る和紙の花」 講師：いなば和紙折り紙教室 坂田 登女子氏	14	
4	12月9日 (月)	「ペーパークラフトで作るメッセージカード 作り」 講師：宇治田 朋子氏	22	

エ ボランティア活動保険加入の受付

・ボランティア活動保険

加入受付件数 1 1 6 件

区 分	加入者数 (人)	備考
在宅福祉員	7 3 5	補助金 @ 3 5 0
高校生 (ボランティア体験事業)	1 0 1	補助金 @ 5 0 0
個人ボランティア	1, 2 8 1	
総計	2, 1 1 7	

・ボランティア行事用保険

本会をはじめ、その構成員や会員である団体、グループなどが主催する様々な行事に対する総合補償制度の受付を行った。

加入受付件数 5 5 件

・事故発生件数

取扱件数 4 件

オ 米子市ボランティアセンター会議室の利用状況

令和 6 年 4 月 1 日よりかぶりあ会議室との相互利用が始まった。

部屋別利用状況 (開所日数 : 3 0 7 日)

	ボランティア 活動室①	ボランティア 活動室②	録音録画室	合計
件数	4 5 1	4 8 4	4 5	9 8 0
人数	4, 5 2 8	5, 2 3 6	9 2	9, 8 5 6

利用目的種別状況

	会議	学習会	作業	録音・録画	その他	合計
件数	1 0 2	2 9 7	2 4	4 5	5 1 2	9 8 0
人数	1, 2 3 8	2, 9 0 3	1 7 4	9 7	5, 4 4 4	9, 8 5 6

カ ボランティア器材の貸出し

器材名	件数
アイマスク	0
ボランティア関連書籍	2
モバイルルーター	1 7
移動式スクリーン	1
デジタル印刷機	1 2 0

キ 広報活動・情報提供

・情報誌「ぼらんていあ情報」の発行 (米子市ボランティア協議会共同発行)

年 6 回 (偶数月) 1 回当り 2, 0 0 0 部を発行し、ボランティアグループ、市役所、公民館、社会福祉施設、学校、病院、銀行等に配布した。また市社協ホームページにも掲載した。

- ・ボランティア情報掲示板の設置

ボランティアセンターに掲示板を設置し、ボランティア募集、ボランティアに関するイベント、講座開催等の情報提供を行った。

- ・米子市ボランティアセンター公式LINE、市社協ホームページ、SNSの活用
ボランティア募集、ボランティアに関するイベント・講座など最新情報の周知を図った。

ク 情報収集

各関係機関及びボランティアグループ等に対し、ボランティア受入れについて調査を実施した。

ケ ボランティア体験事業

鳥取県社会福祉協議会との共催事業 参加高校生 101人

コ 米子市ボランティア活動推進事業（米子市受託事業）

元気ささえあいボランティア登録人数 120人（事業受入協力67施設）

サ 福祉教育を推進するための事業（新規事業）

各学校が実施する福祉教育授業に活用してもらうことを目的に、福祉教育プログラム集を作成し、米子市内全小中学校に配布した。

プログラム配布数 小学校23校 中学校11校

シ ちょこっとボランティア事業（新規事業）

新たな社会参加やボランティア活動を始めるきっかけの場づくりとして、封筒づくりなどの簡易なボランティア活動等を行う事業を実施した。

開催回数 12回（月1回） 参加者数 27名

ス 障がい者との交流事業

米子市、米子市ボランティア協議会との共催事業「米子市福祉のつどい」を開催し163名の参加があった。

セ 米子市ボランティア協議会の事務局及び運営協力

ソ 災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターの設置に備えた体制整備や運営方法等についての情報収集を行い、研修等へ参加した。

(2) 学校での福祉教育の推進

ア 福祉教育授業の実施

子どもたちが地域とのつながりの大切さを知り、お互いを思いやる気持ちを育むことを目的として、小学校での福祉教育授業を実施した。また専門学校での地域福祉に関する講義やフィールドワークへの協力を行った。

授業実施数：小学校9校（のべ26回）、YMCA医療福祉専門学校1回

イ 福祉教育推進校指定

福祉の心が家庭・地域・学校などで体験的に培われるよう、市内36全小・中・特別支援学校を福祉教育推進校に指定して、児童生徒に対する福祉教育の推進を図るため、1校30,000円の助成を行った。

ウ 福祉教育推進研究協議会の開催

小中学校校長会にて協議会を開催し、事業説明や協議を行った。

エ 福祉教育実践記録集の作成

福祉教育推進校の協力のもと、各学校の福祉教育に関わる取組をまとめた福祉教育実践記録集を作成した。冊子の発行から市社協ホームページへの掲載に変更し、各学校の取組をより多くの市民に知ってもらう機会とした。

オ 図書贈呈事業

自動販売機の収益を使い、児童・生徒が本に親しみ、感性と創造力を豊かに育む目的で小中学校に図書を贈呈した。

・実績額 251,962円

図書贈呈状況

区 分	贈呈校（校）	
小 学 校	6	住吉小、加茂小、河崎小、福米東小、福米西小、福生西小
中 学 校	3	湊山中、後藤ヶ丘中、美保中
そ の 他	1	米子市教育支援センター「ぷらっとホーム」

5 米子ファミリー・サポート・センター運営事業

地域の子育て支援を図るため、育児の援助を行いたい者（援助・両方会員）と受けたい者（依頼・両方会員）を会員として組織化し、アドバイザーが仲介し、会員相互の育児支援活動を行った。

広報活動や援助活動の調整及び各種講習会や会員交流会を開催した。また他のファミリー・サポート・センターや関係機関との連絡調整を行った。

会員数（令和7年3月31日現在）（人）

依頼会員	912
援助会員	212
両方会員	30
合 計	1,154

(1) 研修・会合開催状況

ア アドバイザーとサブリーダーの連絡会を年間10回行った。

イ 依頼会員の登録説明会を年間77回実施した（うち日曜開催1回）。

また諸事情により来所できない方に対し、自宅や子育て支援センター等に訪問し依頼会員登録説明を行った。

ウ 安全な子どもの預かりを行うため、「普通救命講習」や「子どもの心と体の発達とその問題点」など、2日間で合計10時間程度の『援助会員養成講座』を年間2回実施した。

エ 既存の援助・両方会員を対象にした事故防止に関する講習会『救急救命講習会』を年間2回開催した。

オ フォローアップ講習会では、「防災研修会」を開催した。

カ 会員同士の交流を図るために『会員交流会』として、7月「夏の交流会」、12月「オリジナルバッグを作ろう」を行った。

内 容	開催数 (回)	会員登録者 実数 (人)	参加者数	
			延べ人数 (人)	備 考
アドバイザー、サブリーダー連絡調整会	10		92	
依頼会員登録説明会	77	113	188	家族(会員の子ども等)同席者も含む
援助会員養成講座	2	援助会員6 両方会員5	42	講師、託児(会員の子ども)、託児要員を含む
救急救命講習会	2		31	講師を含む
フォローアップ講習会	1		22	講師、託児(会員の子ども)、託児要員を含む
会員交流会	2		104	講師、会員の家族及び子どもを含む
合 計	94	124	479	

(2) 活動状況について

「**子ども**の習い事に伴う送迎」を中心に、年間3,656回の活動が行われた。

内 容	回数(回)
学校の登校前、保育所・幼稚園の登園前の預かり	97
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	349
学校・保育所・幼稚園の送り	619
保育所・幼稚園の迎え	730
放課後児童クラブ終了後の預かり	0
学校の放課後の迎え	40
学校の放課後の預かり	20
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0
保護者等の外出の場合の援助	173
放課後児童クラブの迎え	24
子どもの習い事に伴う送迎	1,122
子どもの習い事に伴う預かり	19
保育所・学校等休みに伴う送迎	40
保育所・学校等休みに伴う預かり	0
保護者の就労(短期・臨時・求職活動等)の場合の援助	273

保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0
子ども ^{（赤）} の病気時の援助	0
その他	1 5 0
合 計	3 , 6 5 6

(3) 広報活動について

ア 年間2回会報誌を作成し、会員、子育て支援センター、全国ファミリー・サポート・センター（約100か所）、他関係機関に配布し広報活動に努めた。

イ 米子市内の子育て支援センター（4か所）に来所した保護者に事業説明を行った。

ウ 地域の子育てサークル活動に出向き事業説明を行った。

発行月	会報誌名	発行部数（部）
令和6年6月	よなごファミリー・サポート・センター Vol. 26	1, 300
令和6年10月	ふれあい令和6年10月号	1, 000

6 福祉バス運行事業

地区社会福祉協議会を始め市内の福祉団体、老人クラブ等の登録会員の地域社会交流、研修及び社会参加の促進を図るため、福祉バスの運行を実施した。

福祉バス（2台）の運行状況

利用回数（回）	利用延人数（人）
303	4, 687

7 福祉団体等への支援・協力

(1) 募金団体の事務局運営

福祉に関係のある募金団体の事務局運営を行い、募金運動に協力した。

ア 鳥取県共同募金会米子市共同募金委員会

イ 日本赤十字社鳥取県支部米子市地区

ウ 米子地区更生保護協力会

(2) 福祉団体の事務局運営と活動への支援

福祉団体の事務局運営を行うとともに、自主活動化の支援を行った。また、福祉団体及び協力団体等の活動に対し助成を行った。

ア 福祉団体の事務局運営及び活動助成 10団体

- ・米子市老人クラブ連合会
- ・米子市肢体不自由児者父母の会
- ・米子市手をつなぐ育成会
- ・米子市身体障害者福祉協会

- ・米子市連合母子会
 - ・米子市戦歿者遺族会
 - ・米子更生保護女性会
 - ・米子市地区社会福祉協議会長連絡会
 - ・米子市ボランティア協議会
 - ・米子市民生児童委員協議会
- イ 福祉団体等の活動助成 4 団体
- ・米子市連合婦人会
 - ・鳥取県視覚障害者福祉協会西部支部
 - ・米子保護区保護司会
 - ・青少年育成米子市民会議
- ウ 協力団体活動助成 1 団体
- ・米子市自治連合会